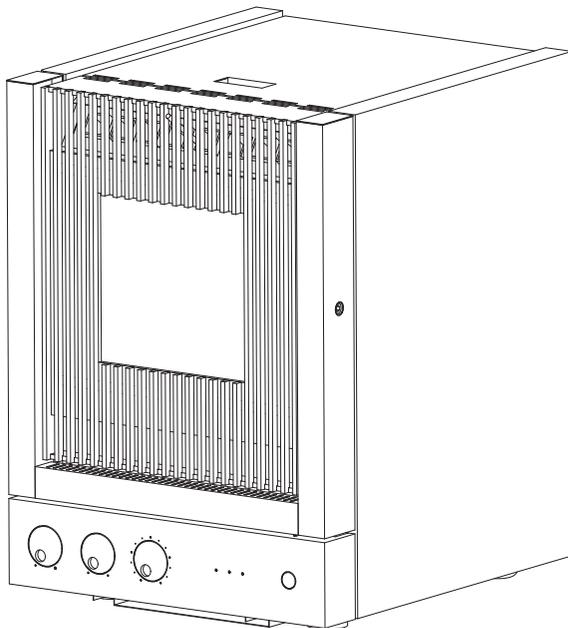


取扱説明書

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、取り扱いのわからないときや不具合が生じたときにお役立てください。



保証書別添付

安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

このペレットストーブは、暖房機用です。室内暖房以外のご使用は絶対しないでください。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承ください。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。



注意

誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示します。



してはいけない「禁止」事項です。



しなければならない「実施」事項です。



「注意」事項です。



絶対に分解・修理・改造はしないでください。



絶対に触れないでください。



必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

警告

高温部接触禁止

ストーブ運転中、及び運転停止後しばらくは、高温部、煙筒等に触れないでください。やけどの恐れがあります。特に小さいお子様の見える家庭では、ストーブに触らせないように、ガードなどを使用し、十分な配慮をしてください。



禁止

可燃物接触禁止

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。また、スプレー・ガソリンなど引火の恐れがあるものは近づけないでください。発火、火災の恐れがあります。



禁止

ペレット燃料以外混入禁止

燃料庫にはペレット燃料以外の物を入れないでください。故障の原因になります。



禁止

燃焼炉異物混入禁止

燃焼炉には、紙、布などを入れないでください。また、ライター、マッチでの着火、着火材は使用しないでください。



禁止

ストーブの上に物を置かない

ストーブの上に物を置かないでください。加熱し危険です。



禁止

ストーブの上でやかんや鍋を使用しない

ストーブの上でやかんや鍋を使用しないでください。水や熱湯がこぼれることにより、やけどやけが、感電、ショート、故障の原因になります。



禁止

分解修理禁止

故障、破損したら使用しないでください。不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



分解禁止

パイプのはずれ危険

給排気管が正しく接続しているか点検してください。外れていると運転中に排気ガスが室内に漏れて危険です。



実施

警 告

異常時使用禁止

におい、煙、すすの発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。
火災や異常燃焼の恐れがあります。



禁止

ストーブ運転中はメイン扉、ガラス扉、
灰受けを開けないでください。

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。



禁止

お手入れはストーブが完全に冷えてから

ストーブ運転停止後しばらくは、本体、パイプ
が高温になっています。完全に冷えてから行っ
てください。
やけどの恐れがあります。



禁止

異常ランプ表示での使用禁止

コントロールパネルのペレット供給ダイヤルを
デッドゾーンランプが点灯している状態で、使
用しないでください。



禁止

煙突閉そく危険

積雪や異物などで、パイプ先端がふさがれてい
るときは取り除いてください。
運転中に排気ガスが、室内に漏れて危険です。



実施

据付上の注意

お客様ご自身による設置は危険です。据付工事
や移転工事は、必ずお買い求めの販売店に、ご
依頼ください。
ストーブ及びパイプの備え付けには、各地の火
災予防条例に従って備え付けてください。



実施

注 意

電源プラグのお手入れを

電源プラグを抜き、ほこりや金属、付着している場合は、取り除いてください。ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電、ショートの原因になります。



ほこりやごみを取り除く

使用しないときは電源プラグを抜く

使用しないときや、お手入れの際は電源プラグを抜いてください。また、電源プラグは濡れた手で抜き差ししないでください。火災や感電、予想しない事故の原因になります。



プラグを抜く

電源コードを傷めない

電源コードに物を載せたり、高温部に近づけたり、電源コードをいためるようなことはしないでください。また、プラグを抜くときはコードをもって引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



実施

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差し込んでください。又、傷んだプラグや緩んだコンセントは使用しないでください。火災や感電の原因になります。



実施

電源の接続

電源は適正配線された单相100V以外では使用しないでください。また、電源コードは延長コードを使用したり、たこ足配線をしないでください。発熱、発火の原因になります。



禁止

ペレット燃料は食べないでください

乳幼児が誤って口に入れないよう注意してください。



禁止

ストーブ表面のお手入れには、研磨剤など、ご使用なさないでください

塗装のはがれ、さびの原因になります。



禁止

目次

安全上のご注意	2～5
目次	6
各部の名称と機能	7～8
使い方	9～13
1. 初めて使用するとき	9
2. 燃料の確認と補給	9
3. 運転の開始	9
4. 火力の調整	9
5. 送風の調整	9
6. 運転の停止	10
7. タイマーの設定	10
8. 運転中にペレット燃料がなくなったら	10
9. 異常ランプ点滅の対処	11
10. お手入れの仕方	12
11. シーズンによる長期の保管	13
12. ダンパー	13
12. ストープの移転等	13
故障かなと思ったら	14
仕様	15

各部の名称と機能

ホッパー（燃料庫）

ペレット燃料貯蔵庫（10Kg）

パイプクリーナー

炉内の清掃に使用します。

温風吹出し口

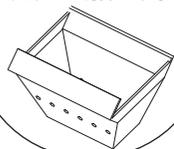
排気板

燃焼炉

燃焼皿

ペレット燃料が
燃焼する部分です。

取外して清掃します



メイン扉

メイン扉開閉 レバー差し込み口

レバーを差し込みにセット
して手前に回し扉を開き
ます。

燃焼容器

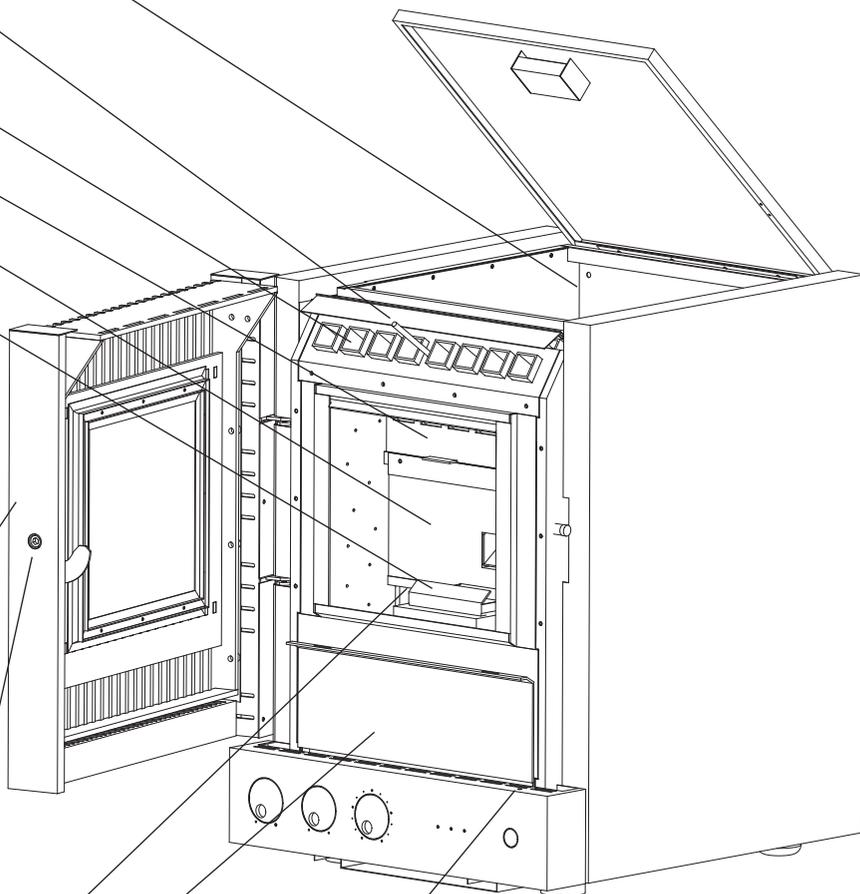
燃焼皿を設置します。

灰受け

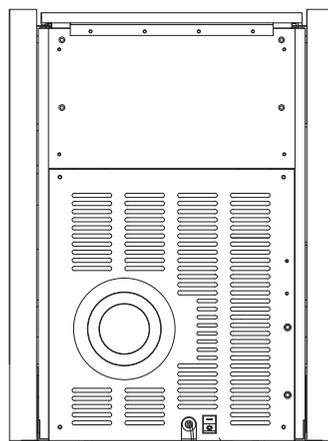
ペレット燃料燃焼後の
灰が溜まります。

燃料供給強制スイッチ

運転停止時、ペレット燃料を
燃料庫より、燃焼皿へ強制的
に送り出します。



ストーブ背面



電源コード

電源スイッチ

各部の名称と機能

ペレット供給ダイヤル

- ・ペレット燃料の供給量を調整して火力を、最小から最大まで設定します。

送風ファンダイヤル

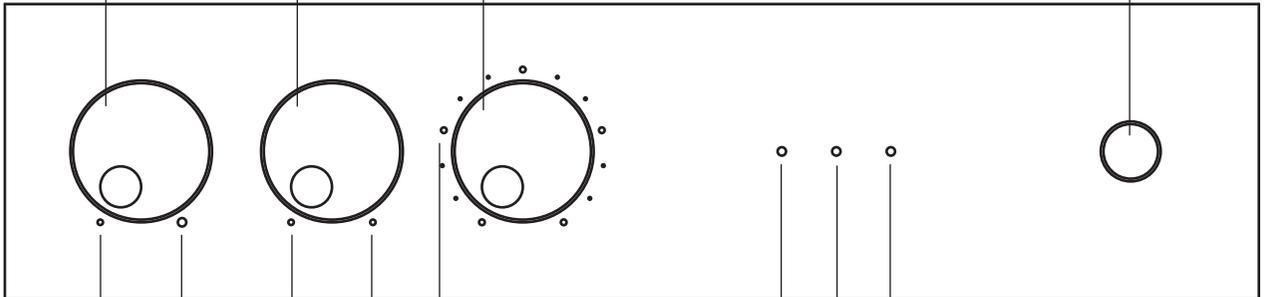
- ・送風量を調整します。

着火タイマーダイヤル

- ・着火時間を予約します。

ON/OFFボタン

- ・ストーブの運転・停止を行います。



タイマーランプ

- ・着火時間の設定を1目盛り1時間、3時間ごとに点灯で示します。
※カウントダウンはしません。

運転ランプ

- ・正常運転を点灯（緑）で示します
- ・燃料切れによる自然消火は点滅（緑）でお知らせます

送風量最大

送風量最小

デットゾーン表示ランプ

- ・ペレット燃料の過剰供給を赤の点灯でお知らせします。

異常ランプA

- ・故障や異常を点滅（赤）でお知らせします。
（11ページ参照）

異常ランプB

- ・故障や異常を点滅（赤）でお知らせします。
（11ページ参照）

ペレット燃料の最小供給量

使い方

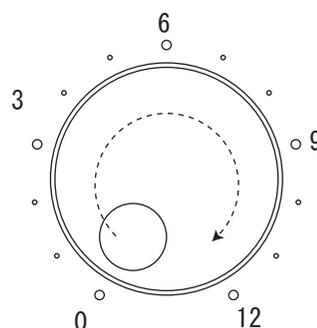
6. 運転の停止

- ①ON/OFFボタンを押します。運転ランプ（緑）が消灯します。
- ②ペレット燃料の供給が止まります。
- ③燃焼炉の温度が50度以下になるまで送風と排気は継続し、その後すべて停止します。

7. タイマーの設定

- ① 着火したい時間は何時間後ですか？その時間をダイヤルで設定します。
※1時間後から12時間後まで。ランプ1個は3時間を示します。
- ② ON/OFFボタンを押します。正常運転ランプ（緑）が点灯します。
※ON/OFFボタンを押した後に、ダイヤルを操作されると、タイマーが正しく作動しません。
※設定を変更する場合は、ダイヤルがカッチと音がするまで戻しON/OFFボタンを押し、運転停止の状態にします。
もう一度①から設定してください。
※着火後、着火タイマーダイヤルは、手動にて戻してください。
(カウントダウンはしません)

着火タイマー



8. 運転中にペレットがなくなったら

- ①ON/OFFボタンを押して運転停止の状態にします。
※ホッパーが空になっても、まだ燃焼が続いている状態で燃料を補充しないでください。誤作動となる可能性があります危険です。
- ②ペレット燃料をホッパーに入れます。
- ③初めて使用するとき同様に、（9P-1. 参照）燃料供給強制スイッチをペンなどの先の細い物で押し続け、ペレット燃料を燃料庫より、燃焼皿へ強制的に送り出します。
※燃料供給強制スイッチは、電源がONの状態では作動しませんので、注意してください。
- ④ペレット燃料が燃焼皿へ落ち始めたら、ON/OFFボタンを押して運転を再開します。

使い方

9. 異常ランプ点滅の対処

確認

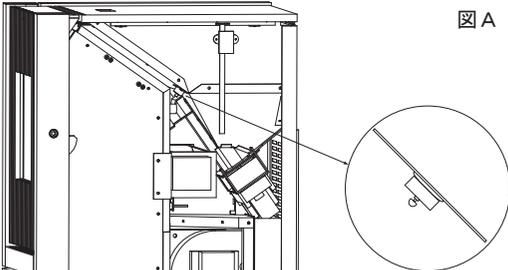
原因

対処

運転ランプ（緑）が点滅したとき

<p>ホッパー内のペレット燃料が空になっていませんか？</p>	<p>燃料ぎれ</p>	<p>燃料を補給します 1OP-8. の「運転中にペレット燃料がなくなったら」を参照の上処置を行ってください。</p>
---------------------------------	-------------	---

異常ランプA（赤）が点滅したとき

<p>耐震装置が働いた疑いはありませんか？</p>	<p>地震やストーブ本体への衝撃等</p>	<p>ON/OFFボタンを押し、運転停止の状態にします。 燃焼炉が50度以下になり送風ファンが停止したのを確認後、再度ON/OFFボタンを押します。</p>
<p>過熱センサーが働いた疑いはありませんか？</p>	<p>燃焼炉の異常高温等</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>運転ランプ（緑）が点灯すれば正常運転です。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>異常ランプA（赤）の点滅が続。</p>
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>図A</p> </div> </div> <p>①ストーブ右側のパネルを外します。</p> <p>②ホッパー（燃料庫）の裏側についている過熱センサーのリセットボタンを押します。</p>		<p style="text-align: center;">↓</p> <p>※耐震装置が働いたと考えられます。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ストーブ右側のパネルを外し、ホッパー（燃料庫）の裏側についているセンサーのリセットボタンを押します。左記図A</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>運転ランプ（緑）が点灯すれば正常運転です。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※原因を究明してください。</p>

異常ランプB（赤）が点滅したとき

<p>排気管に詰まりはありませんか。</p>	<p>排気管の異物混入等</p>	<p>排気管を点検し、異物が混入していれば取り除きます。なお、積雪などでパイプトップがふさがれている場合は雪を取り除きトップがふさがれないようトップを下げてください。</p>
<p>排気管の清掃が必要ではありませんか。</p>	<p>排気管の煤による詰まり等</p>	<p>排気管を点検し、煤がひどい場合は清掃をしてください。</p>

処置をしても症状がなおらない場合は、お買い求めの販売店もしくは、弊社にお問合せください。

使い方

10. お手入れの仕方

燃焼炉内の清掃

①燃焼炉内、上部に **A** 排気板（左右2枚）がはめ込まれていますので、排気板下部の少し突き出している部分①を指で押し上げ外し、②手前の方向へ引き出します。

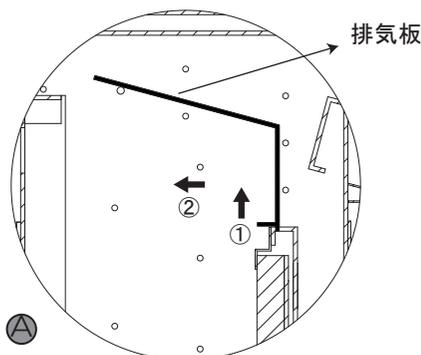
② **B** パイプクリーナーを数回出し入れして炉内上部に溜まった煤を落とします。清掃終了後は、パイプクリーナーを元の位置に戻し、排気板をはめ込んでください。

※排気板を取り付けずに使用されますと、熱効率が下がり故障の原因となります。



排気板を取外します

排気板設置時側面図



● 灰受け

- ①メイン扉を開け灰受けを手前に引き出します。
- ②週に一度を目安に灰のたまり具合を点検してください。
※ペレット燃料により灰分含有量は異なります。
- ④灰の処理は、お住まいの市町村の条例に従ってください。
田畑の肥料にもなります。

● D メイン扉

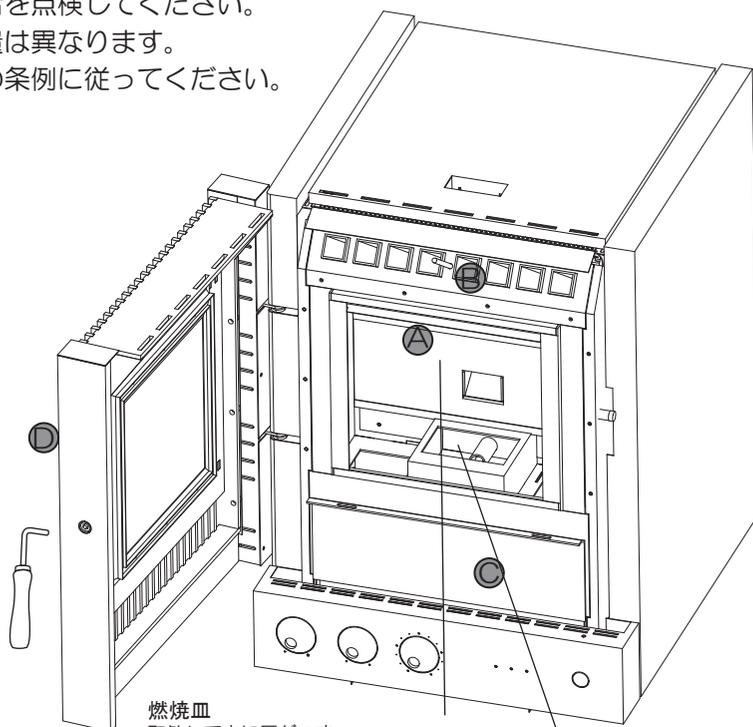
①レバーを差込口にセットして手前に回し扉を開きます。

②扉のガラス部は高温耐熱性のガラスです。柔らかい布などで煤をふき取ってください。

※やわらかい布に少量の水と灰をつけ、ガラスを拭きますと煤がよく落ちます。

※熱を持ったガラスにぬれた布等を使用すると破損します。

※扉のガラス部破損の際は、お買い求めの販売店もしくは、弊社までご連絡ください。弊社以外のガラスは、使用しないでください。



燃焼皿
取外して穴に灰がつか
らぬよう、取り除く。

燃焼炉内
刷毛で網目より灰
を灰受けに落とす

燃焼容器
掃除機で吸い取る



吸排気管

- ①シーズンの終わりには、吸排気管のお手入れをしてください。
- ②異物の混入で灰等が詰まっていないか定期的に点検してください。

使い方

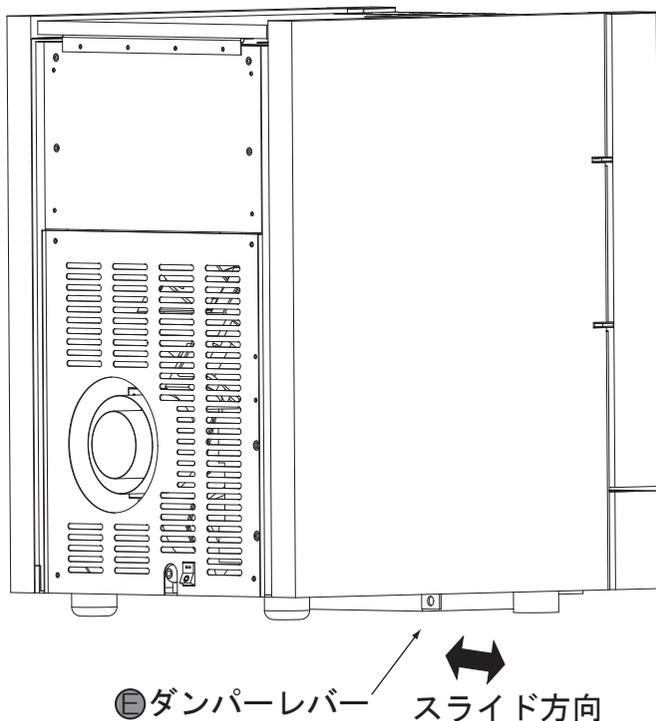
11. シーズンによる長期の保管

- ①ストーブ背部の電源スイッチを切り電源をコンセントから抜く。
- ②ホッパー内のペレットを取り除く。
- ③燃料供給強制スイッチをペンなどの先の細い物で押し続け、機械内部に残ったペレット燃料を燃焼皿へ送り出します。
- ④本体及び排気管、吸気管の清掃をしてください
※本体はできるだけ備え付けたまま保管してください。再度、備え付けを行うときは、必ず取付け業者に依頼してください。
※排気管キャップを使用して、外部からの湿気を遮断することをお勧めします。

12. ダンパー

ペレットの供給量等が適切なのに、炎に黒煙が混じったり、通常よりも炉内に煤が多くつく、などの症状が常時出るようになった場合、図㊦ダンパーにて燃烧に必要な空気量を調節することが出来ます。

- ①ストーブ左側のパネルを外します。
- ②ダンパーレバーをスライドさせ、炎の大きさを調整してください。



13. ストーブの移転等

※ストーブの設置場所が引越しなどで変わる場合、電機の周波数をご確認ください。周波数の切り替えが必要な場合は、ストーブの備え付けの依頼もあわせ、お買い求めの販売店にお問合せください。

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症 状	原因と対策
火力を調節しても 燃焼が変わらない	<ul style="list-style-type: none"> ■着火後10分以内ではありませんか？ ON/OFFボタンを押してから、約10分間は自動運転のためペレット供給ダイヤル及び送風ファンダイヤルは機能しません。約10分後、送風ファン送風開始後調整してください。 ■異常高温になっていませんか？ 異常高温の状態になるとセンサーが動き自動運転（送風ファン最大、ペレット燃料の供給量最小）となります。一定の温度に下がるとダイヤルにて操作が可能となります。
起動しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ストーブ背部の電源スイッチがOFFになっていませんか？ コンセントを差込み、背部電源スイッチをONにし、ON/OFFボタンを押します。 ■ストーブは十分冷えていますか？ 燃焼炉内の温度が下がるまでON機能しません。少し時間を置いて、再度ON/OFFボタンを押してください。
煙やにおいがする	<ul style="list-style-type: none"> ■使用初期は塗料やほこりが焼けるためです。しばらく窓を開けて換気をしてください。
ペレット燃料に点火 しない	<ul style="list-style-type: none"> ■燃焼皿は正確に燃焼容器に取り付けられていますか？ もう一度燃焼皿を燃焼容器に取り付け直します。 ■燃焼皿の清掃はしてありますか？ 燃焼皿に付着した灰等しっかりと取り除きます。 ■ガラス扉及び灰受けはしっかりとしまっていますか？ ガラス扉及び灰受けをしっかりと閉めます。 ■ペレット燃料が水分を含んでいませんか？ 湿気のないペレット燃料を使用してください。
ペレット燃料が燃焼 炉に落ちてこない	<ul style="list-style-type: none"> ■ホッパー（燃料庫）に詰まりはありませんか？ ペレット燃料以外のものは取り除いてください。 ■燃料切れで自然消火した後ではないですか？ 10P-8. を参照して燃料の補給を行ってください。
運転中に消火した	<ul style="list-style-type: none"> ■ホッパーにペレットは入っていますか？ 10P-8. を参照して燃料の補給を行ってください。 ■燃焼炉に灰が溜まりすぎていませんか？ 燃焼炉の清掃をしてください。 ■電源はきていますか？ 電源を確認します。停電などで電源が途絶えた場合、燃焼炉内が50度以下になるまで再運転は出来ません。燃焼炉の温度が下がったらON/OFFボタンで運転を開始してください。 ■ストーブが異常高温になっていませんか？ 異常ランプA（赤）が点滅した場合、加熱センサーが働いた可能性があります。 11Pを参照して処置をしてください。 ■地震や強い衝撃を受けませんでしたか？ 異常ランプA（赤）が点滅した場合、耐震装置が働いた可能性があります。 11Pを参照して処置をしてください。
すぐに火が消えない	<ul style="list-style-type: none"> ■運転停止のためON/OFFのボタンを押すと運転ランプは消灯し、燃料の供給は止まりますが、未燃焼のペレット燃料は燃え尽きるまで火は消えません。ペレット燃料が燃え尽き、燃焼炉内の温度が50度以下になると送風、排気、全てが停止します。 しばらく待ってください。
異常ランプが点滅し ている	<ul style="list-style-type: none"> ■異常が考えられます。 11Pを参照の上処置を行ってください。

処置をしても症状が治らない場合はお買い求めの販売店にお問合せください。

仕 様

商品名	
暖房方式	強制給排気、強制対流形
点火方式	イグナイター方式
使用燃料	木質ペレット(ホワイト)
発熱量 (入力) 最大	23,400KJ/h
発熱量 (入力) 最小	9,000KJ/h
熱効率	80%
暖房目安	40m ²
タンク容量	10kg
外形寸法	W480 × D535 × H663
重 量	80kg
電 源	100V 50Hz・60Hz
電源ヒューズ	10A
定格消費電力 点火時	400W
定格消費電力 運転時	90W/60W
安全装置等	着火タイマー・感震装置 加熱防止装置 (70°C・90°C)

■発熱量は、木質ペレットの発熱量、18,000KJ/kgを基準に算出しています。

■製品改良のため、デザイン、仕様の一部を変更することがあります。

■この製品は、海外ではご使用になれません。

Shimotani

〒509-2516岐阜県下呂市萩原町上村853-1 TEL0576-52-3775 FAX0576-52-4801
URL <http://www.shimotani.com/> E-mail info@shimotani.com